

『バルザック 生誕 200 年記念論文集』

まえがき

高山 鉄男

構造—トポス・エコノミー・フェミニテ—

バルザックにおける時間の感覚

大矢 タカヤス

パリの小説家バルザック—『ヴァン・クロール』の場合—

澤田 肇

バルザックのオリエント—目のなかのインド—

片桐 祐

『人間喜劇』の中のアメリカのイメージ—絵舞台パリと対極の蛮地

山崎 朱美子

バルザックと鉄道—「私は北部鉄道の株主です」—

西田 俊明

バルザックの経済小説を読む—『ウジェニー・グランデ』—

早水 洋太郎

『人間喜劇』における家族—『ウジェニー・グランデ』の場合—

藤原 団

『田舎医者』の優しさ—『人間喜劇』に描かれた男性の母性について—

中村 加津

寓意としての「娼婦」—『知られざる傑作』を中心に—

村田 京子

世界—ロマネスク・ポエジー・ジャンル—

ロマネスクと知—『十三人組物語』について—

中山 眞彦

バルザックの小説におけるメロドラマ的側面について

大下 祥枝

『人間喜劇』の演出家たち

東 辰之介

タデ・パス 登場人物・作者・役者?—『偽りの愛人』について—

岡田 充代

仮面とゴシック—『暗黒事件』試論—

私市 保彦

ヴォークリーズから来た密偵

飯島 耕一

正義の主題とヴォートラン最後の物語

宇多 直久

『女性研究』小論

道宗 照夫

テキストの変装—『グランド・ブルテージュ』をめぐって

奥田 恭士

バルザックにおける「無垢」の一側面—『ピエレット』について—

佐久間 隆

『結婚の生理学』の教えるもの—夫婦生活と病理学—

松村 博史

『二人の若妻の手記』について

加藤 尚宏

声に関する逆説—バルザックの音楽小説についての考察—

五島 学

『アルベール・サヴァリユス』—声とまなざし—

柏木 隆雄

広がり—イデー・エクリチュール・ネットワーク—

バルザックとコンサントリックな世界

中堂 恒朗

青年バルザックの天使像

西岡 範明

顔面角—あるいは描写のパラダイム変換をめぐって—

吉川 泰久

どよめきと噂

人物「名」再登場

バルザックのある語法について—il y va de...及び il s'en va de...

悪魔と魔女のいる『風流滑稽譚』

『人間喜劇』といくつかの絵入り本

「全集」の夢

ネットワークとしての『人間喜劇』

博多 かおる

多田 寿康

石井 晴一

武本 尚也

伊藤 幸次

泉 利明

霧生 和夫

あとがき

執筆者紹介

バルザックの主要著作 一覧と索引